

地域計画部会（真崎浦・大山下・細浦エリア）報告書

1 実施日時

令和7年11月17日（月） 16:30～18:30

2 参加者

中心的担い手5人，真崎浦土地改良区事務局3人，東海村農業委員・農地最適化推進委員2名，東海村職員7人，アドバイザー（株流通研究所）2名

計19名

【部会の様子】



3 内容

<話し合いで出た意見>

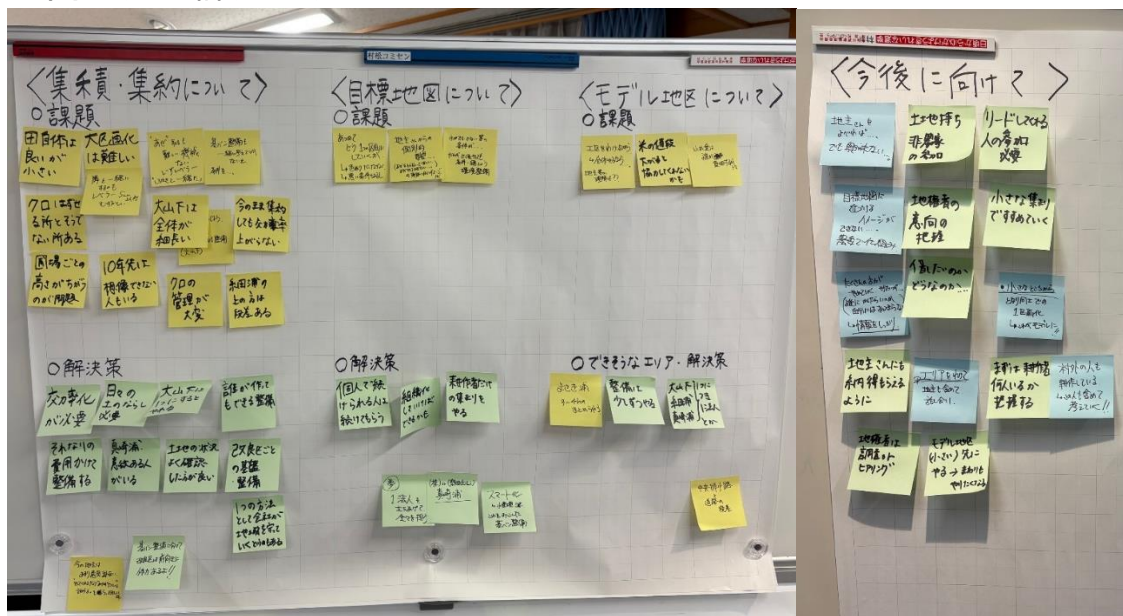
○各個人の意見

- ・現在は真崎浦で耕作している。10年後の農業がどうなっているのか心配。大区画化などの事業について考えている。
- ・土地改良区の現状としては，地域内で地盤沈下が多い。道路と橋との段差があるところがあり，車の下を擦ってしまうこともある。圃場整備から40年経っていて，老朽化が進んでいる。毎年少しずつ修繕はしているが，どんどん古くなっている。大変な状況である。
- ・照沼小学校の児童たちが米作りを体験する際の田んぼを貸している。地域の代表の方が年間を通して管理しながらやってくれている。子どもたちの米作り体験については教育の観点からも引き続き確保していきたいと思う。大山下には耕作している農地がある。個人的に農地の見回りもしている。幸い真崎浦は休耕地は少なく，真崎浦夕照は東海12景の1つになっている。陽が沈む光景，黄金色の稲穂，素晴らしい景観は将来的にも維持していきたい。
- ・去年までは3町歩程耕作していたが，今年からは細浦の2町歩は貸し，あとは照沼小の小学生向けにもち米を作っている。それでも，自分の管理している圃場については，きれいに管理していこうと思っている。
- ・同じエリアで田んぼを作っている人は3人しかいない。エリア内では調整池を造っている。
- ・設備が古くなっている。新川沿いの田んぼを作っている。今後那珂川沿岸関連の事業

で水がくることになっているがどうなっていくのか心配。

- ・65歳までは勤め、そこから10年農業を頑張ってきた。新川と真崎浦の田んぼを耕作している。今日は集積・集約に向けて、皆さんの話を聞きたいと思った。
- ・集約するには田んぼ自体に問題があると感じている。場所によっては自分でも作るのが嫌になるくらいの小さい田んぼがある。
- ・新川と真崎浦で田んぼを耕作している。もう少し耕作しても良いと思っているが、できていないのが現状。
- ・自分たちの年代は親が農家やっていて、小さいころから手伝いさせられていた。学校も農業関係に行き、JAにも勤めていた。職場は早めに辞め、就農することとなった。農業を始めると、農地がどんどん集まってきて、おもしろくなり続けている。今後は、会社を立ち上げるなどして続けていかなければならないとも思っている。若い人が就農したところで、水稻をやるかというところでもない。あと5年も経ったら引退の人も増えてくる。悪い圃場は地権者へ返したいと思うこともあるが、我慢しながら耕作している。自分の農業の先も見えてきたので、若い人が意欲をもって耕作していけるようにしていきたい。これから5年が勝負だと思う。東海村の農業がこれからも続くように皆さんと一緒にやっていきたい。

<問題点や課題の洗い出し>



○集積・集約について

- ・田自体の状態は割と良いが、小さい。
- ・大区画化は難しい。
- ・段差が大きく、レベラーで段差を調整するのも難しい。
- ・圃場ごとに高さが違うのが問題。
- ・畔をとるのも難しい。
- ・集積・集約するには基盤整備も一緒に考えていかないと厳しい。
- ・10年先の農業を想像できない人もいる。
- ・大山下は全体が細長い形状。
- ・細浦の上の方は段差がある圃場が多い。
- ・今のまま集約しても効率化は上がらない。
- ・省力化や効率化が必要。
- ・日々土をならすことが必要。
- ・大山下は1つにまとめられると耕作できそう。

- ・誰でも耕作できる整備が必要。
- ・ある程度の費用をかけて整備する必要がある。
- ・真崎浦には意欲ある人がいる。
- ・土地の状況をよく確認した方が良い。
- ・改良区ごとの基盤整備が必要。
- ・会社が地域の農地を守っていくという話も1つある。

○目標地図について

- ・集めて1つの区画にどのようにしていくかが問題。
- ・畦を取らないでほしいことや個人で耕作していきたい等の地権者からの個別要望もあり、目標地図のイメージが沸かない。
- ・水が出やすい場所、出にくい場所があるので、誰がどこをやっても条件が同じようにしないといけない。
- ・目標地図は理想としてあるが、個人として耕作していける人には続けてもらうことも必要。
- ・組織化していればできることもある。
- ・耕作者だけの集まりを重ね、意見交換していけると良い。
- ・真崎浦で株式会社か農事組合法人を立ち上げられると良い。
- ・水管理等のスマート化を見越した基盤整備が必要。

○モデル地区について

- ・工区を分けながら全体を基盤整備していけると良いが、地権者等の理解も必要。
- ・米価が上がると耕作したい人も増えるので、基盤整備に協力的ではなくなってしまうかもしれない。
- ・賦課金の負担を誰がしていくかも考えていかななくてはならない。
- ・真崎浦は3～4haでまとめていけそう。
- ・整備を少しずつやっていくことが必要。
- ・大山下、細浦、真崎浦それぞれにつき1つの法人を作れると良い。
- ・中央排水路と道路の段差を埋められると良い。

○今後に向けて

- ・話し合いの場に地権者を呼べると良い。
- ・基盤整備や地域農業を考える機会にはリードしてくれる人の参加が必要。
- ・目標地図に近づけていくためには農業委員会で仕組み作りが必要かもしれない。
- ・地権者の意向把握を進める。
- ・小さな集まりを重ねて少しずつ進めていけると良い。
- ・多くの方が耕作をやめていくなか、拡大したい思いの人もいる。しかし、情報が少なく、農地が集まらない場合もあるので、そのような仕組み作りも必要。
- ・隣同士の圃場を1区画にするなど、小さな所から始められるとそれがモデルになる。
- ・エリアの耕作者の状況を把握するところから始める。
- ・小さい区画でモデル地区を作れば、まわりもやりたいというところが出てくる。
- ・地権者にも意向の調査やヒアリングをしていく。

<まとめ>

- ・地権者の意向確認や理解促進のための取組みを進める。
- ・1区画単位の小さなエリアから集積・集約を進めることを目標にする。
- ・耕作者だけの集まりなど、小さな話し合いの機会を重ねていく。